

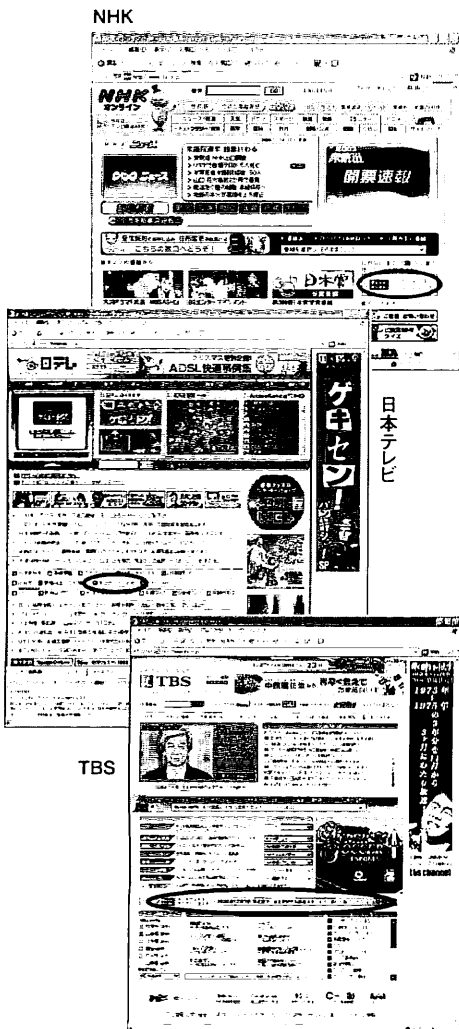
33 在京テレビ局「地上デジタル放送」紹介サイト

マスメディアのサイトとして、万人に情報が伝わるような配慮を

12月1日、地上デジタル放送が三大広域圏からついに始まった。アナログ放送との違い、受信方法、また視聴エリアの問題など視聴者が知りたい情報に、テレビ局はどのような形で対応しているのか。本誌2003年5月号では在京6社が運営する「カウントダウン!地上デジタル放送」を分析した。今回は各テレビ局個別のサイトを対象に、濱田氏がデジタル放送へのWebアクセシビリティ調査を行った。テレビ局の周知広報は機能しているのか。

Accessibility (解説/濱田英雄)

今回はNHKと在京の民放6社を調査しましたが、残念ながらフジテレビのトップページには、地上デジタル放送に関する情報は見つかりませんでした。ただし、同社サイト内の「こちらフジテレビ」には、東京の放送局6社が共同で運用し、地上デジタル放送に向けた総合的な情報を提供している「カウントダウン!地上デジタル放送」のサイトにリンクしていました。また、テレビ朝日、テレビ東京もオリジナルの情報はなく、このサイトにリンクしています。ここは本誌連載25回目で取り上げましたが、テキスト主体で全体量も少なく、一見問題点がないように思われました。が、評価は星2つとかなり低くなっています。なお、MXテレビでは総務省サイトにリンクしています。



●NHK

【バックグラウンドミュージック】(図2)

このページを表示すると音楽が流れます。一般的には音声の流れると、音声ブラウザの読み上げを妨げるので自動的に再生させないほうがよいとされています。

しかし、私は必ずしもバックグラウンドミュージックが悪いとは言えないと考えています。実際に全盲の人から、バックに音楽がかかっても妨げにならないケースもあるし、かえてよいと感じることもある、との意見を聞いています。このページの場合も、音声ブラウザで聞いていても邪魔ではないように思えます。ただ残念なことに、一応音楽を止められるようにボタンがついていますが、音声では止めることができませんでした。

【ALT属性】(図3)

このボタンのALT属性は、「d.NHKデータ放送」となっています。この場合は一応音声で聞き取れますが、「でいNHKデータ放送」のようにしたほうが音声で聞き取りやすいこともあります。このようになじみのない言葉には、例えば「リモコンdボタンのd.NHKデータ放送」など、何らかの説明的なALT属性をつけることも一つの方法だと思います。いずれにしても、音声だけで聞いてみて理解しやすい方法を考える必要があります。

【音声ブラウザで読めないもの】(図4)(図5)

図4の部分はマウスポインターが当たるとグラフの説明が出ますが、音声ブラウザでは認識できません。また、詳細のページでもいきなり表組の内容が読まれ、わかりにくくなっています。このプログラム部分に情報付加ができなければ、詳細ページの最初に詳細な表組であることを告知したり、簡易的な説明を入れるなど、何らかの情報を提供すべきでしょう。

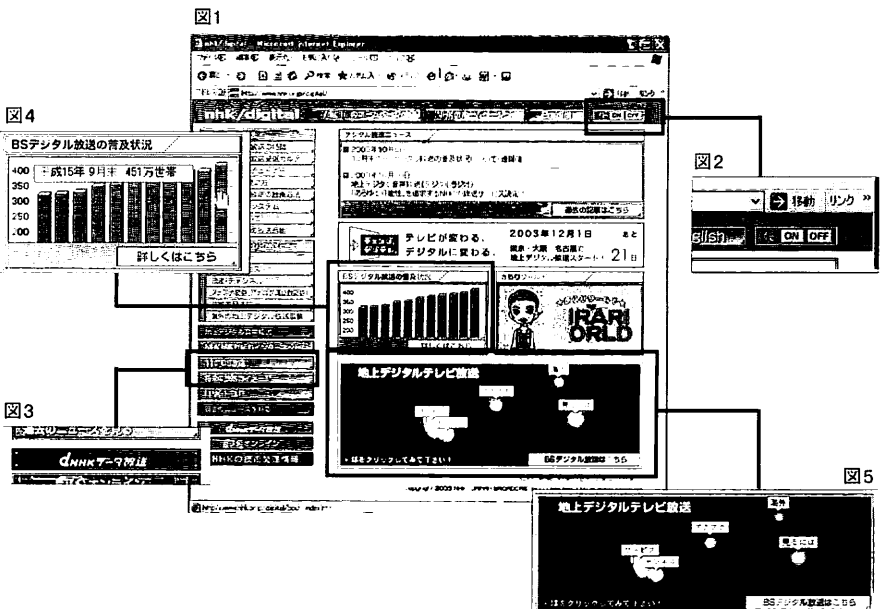
図5では動く球体にマウスポインターを当てると、コメントが変わるような仕組みになっています。これも音声ブラウザでは情報を得ることができません。また、この中にあるリンクボタンも認識できません。別にリンクする方法を提供する必要があります。さらに、この球体をマウスポインターで追いかけるという行為自体も難しい人が存在します。重要な情報提供には使わないほうがよいでしょう。

●日本テレビ

【フレーム】(図6)

このページは3つのフレームに分かれています。上のフレームには、上位階層へのリンクが3つだけ入っており、下のフレームはこのページへのリンクしか入っていません。

このように、あまり意味がないフレーム構成は音声ブラウザでの混乱を招くだけです。





アクセシビリティ分析担当

濱田英雄

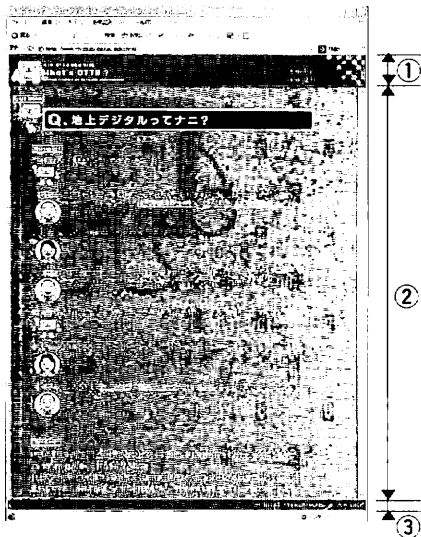
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com

(株)ユーディット

URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

図6



【ALT属性】(図7)

図7



よく見るとこのページは間違えて作られています。最初の「Question」と、「地上デジタルってナニ?」には、ALT属性がついていません。次に「Answer」というALT属性がついて、また質問のテキストが入っています。つまり、音声では「Answer」という回答の次に、「地上デジタル放送ってナニ?」の質問が書かれています。

また、「Question」「Answer」は英語の苦手な人にはわかりにくいので、ALT属性は「質問」や「回答」などとすべきでしょう。

さらに、Answerの下にある「テレッ太くん」というテキストの下のイラストにも、同じ名前のALT属性が入っていて、音声では二重読みになっています。テキストがあるので、全角スペースを入れるか、意図的に何も入れずにしたほうがよいでしょう。

【背景色と文字色】(図8)

図8



このページの背景はエンジ色ですが、最後のおまけの文章は文字色がグレーで見やすいとはいえません。背景色と文字色など、配色の組み合わせはできるだけコントラストをつけ見やすくする必要があります。

●TBS

【ALT属性】(図9)

図9



このページのALT属性は、画像に書かれている文章より情報が不足しています。例えば、【画像の文字】デジタル放送で、テレビがもっと楽しく、もっと身近に!

【ALT属性】デジタル放送でテレビがもっと楽しく!

【画像の文字】リビングが映画館に! 迫力のワイド画面 高画質な映像

【ALT属性】迫力のワイド画面 高画質な映像

【画像の文字】新聞のテレビ欄はもういらない? テレビ欄はテレビで見る

【ALT属性】テレビ欄はテレビで見るのようになっています。必ずしも画像の文字と同じALT属性にする必要はありませんが、情報が過不足していないか、検討したほうがよいでしょう。また最初の写真には、下の説明と同じALT属性の「世界遺産」が入っているので二度読みされます。

今回の調査で一つ気になったのが、各テレビ局のサイトの横幅が800pxを超えているところが多かったことです。6局のうち4局が1000px近くになっていました。最近のディスプレイの画面領域は800px×600px以上のものが多く増えており、できるだけ多くの情報を提供したい気持ちはわかります。しかし、弱視の人が画面を拡大するとか、ブラウザのサイズを小さく表示していたり、画面の領域が狭い環境でしか見ることのできないことも想定してみてください。作成サイズはスクロール

バーも含めて、ブラウザの表示サイズが横800pxを超えないことが望まれます。

●各局の横幅作成サイズ

(ブラウザ使用分も含む)

1. NHK: 800px
2. 日本テレビ: 995px (800px超)
3. TBS: 916px (800px超)
4. フジテレビ: 996px (800px超)
5. テレビ朝日: 997px (800px超)
6. テレビ東京: 779px
7. MXテレビ: 788px

特にフジテレビの場合は、画面の領域を800px×600pxにすると、下のフレームには横スクロールバーが出ます。右端を見ることはできませんが、フレーム上部は固定されているため見られず、いくつかの情報が伝わらなくなります。

【ブラウザの横幅800pxの場合】(図10)(図11)

図10

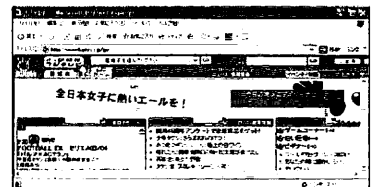
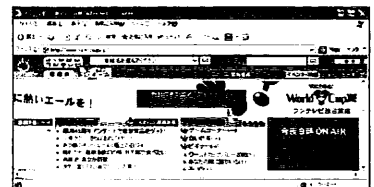


図11



右側が欠けて、横のスクロールバーが現れる(図10)。スクロールバーを移動させれば、下のフレームの内容は視認できるが、上のフレームの内容は見られない(図11)。

【ブラウザの横幅1000pxの場合】(図12)

このように1000pxにすると、全面が表示される。これを見ると、上フレームの情報の一部が隠れてしまうことが確認できる。

図12

